

沖縄県小児保健協会「鳩」の飛翔

公益社団法人 沖縄県小児保健協会
会長 宮城 雅也

公益社団法人沖縄県小児保健協会の会長の職を拝命し、小児保健に尽力された先人達の業績を引き継いで、発展させるという大きな課題を申し受けました。21世紀が幕開け、少子高齢化が益々進行しており、子どもの健全な成長に影響が大きい子どもの貧困等に、強い関心が向き始めています。国は国民運動計画「健やか親子21」で、予防的な側面を積極的に進めています。そこでは「健やか親子21（第2次）」の達成に向け、「標準的な乳幼児期の健康診査と保健指導に関する手引き」が厚労省より発刊されました。この手引には、日本全国どこで健診を受診しても、一定水準の健診が受けられるような、標準的な乳幼児健診が明記されています。ここでは、目指すべき理想的な乳幼児健診システムが述べられておりますが、どれだけの市町村が速やかに対応できるか危惧しております。

この手引きのなかには、聞きなれない健康診査の精度管理という項目が明記されています。一般的に「検診」（がん検診など）は、疾病を見逃さずに発見できるのかという指標が決まっているので、「検診」の指標はわかりやすくなっています。しかし「健診」となると健康を診査するため、指標は多角面にわたり難しい設定となります。乳幼児健診の指標をどのように設定するのかは、研究が必要となります。さらに、適切な指標にするには検証も必要となり、研究と検討を重ねて適切な指標を示していく必要があります。

このような時代の動きに対して沖縄県小児保健協会は数年前より、乳幼児健診のIT化を検討してきました。医療機関では、多くの施設で電子カルテが導入されてきております。カルテが電子化されたことで、必要なデータが必要な時に提供できるようになり、情報の共有化や医療の質の向上に大きく貢献し、今では電子カルテが不要という施設はありません。乳幼児健診の標準化においては対象者全数把握、過去の情報把握、未受診者対応、健診事後カンファレンス、多職種による健診結果の総合判定、精査結果管理、精度管理など、より高度な内容が要求されてきています。これまでの方法では行き詰ってしまう可能性があります。その解決方法として、沖縄県小児保健協会は「健診のIT化」を最も有効な施策と位置づけています。時代の要求や変化に対応できる健診システムとするためには、IT化の実現は不可欠だと考えます。

それでは乳幼児健診がIT化されて何が変わるのでしょうか？ 今考えられる主なものを上げると、①未受診児の早期把握と対応、過去データの確認、②健診事後カンファレンスのための情報提供、③健診精度管理の指標設定の円滑化、④診察・問診における対話時間の確保、⑤提出書類作成の標準化と効率化などが考えられます。しかし最大の利点は、医療機関の電子カルテが導入当時と比べて格段に進歩した様に、乳幼児健診システムが進化・進歩することです。このシステムの運用には色々な課題がありますが、一つ一つ検討を重ねることで解決できます。

乳幼児健診で出された精査票も重要な項目です。その精査の結果をフィードバックすることは、健診参加医が健診での診察水準を上げる大切な施策になります。それは健診の質の向上となり、精度管理にも繋がります。

標準化の手引が提示されて以来、乳幼児健診は更に重要さを増し複雑になってきています。そのため、健診の全体像を把握することが難しくなってきました。全体像を把握し理解する人が増えることが、今後の健

診の質の向上・発展に繋がります。そのために必要なのは、最新の技術を活用するという積極的な発想「ひらめき」であり、その「ひらめき」は「健診のIT化」だと思っています。

今後、健診は益々複雑になります。その為には、より多くの関係者が「健診のIT化」という共通理解の元に、常に連携を取りながら事業を進めていくことが重要で、それが我々乳幼児健診に関わる者の大きな使命だと考えています。

沖縄県小児保健協会のロゴのなかの鳩は、健全なる小児を象徴しています。21世紀に、その全ての白い鳩（子ども達）が大きく羽ばたくお手伝いを沖縄県小児保健協会はしていきたいと思っています。